

2. 授業実施レポート

① プラン① 紙芝居 + 水の基礎知識

対象：小学校1～6年生

必要な時間：1～3時限

① 授業前半：紙芝居『雨つぶくんの大冒険』読み聞かせ

授業の前半は、紙芝居を使って、様々な形を変えながら地球をめぐる水の様子を辿りながら、森、川、海のつながりや、水の役割、地球全体の水の循環のしくみを学びます。



雲から雨になって、大地に落ち、土へとしみ込み、土からの栄養を含みながら川へと、里を巡ってさらに海へと旅する雨つぶくんの冒険に、子どもたちも興味津々。



紙芝居に登場する風景のなか、
一体どこに水がある？子ども
たちみんなで懸命に探します。

あそこにも！ここにも！
紙芝居のなかに描かれた
水のありかを、次々と見
つける子どもたち。



② 授業後半:テーマ別に水の学びを深める

1年～3年生は、身近な水（テーマ例③）にまつわるクイズで、水の役割や、日々の暮らしと水の関わりを学んでいきます。



知っているようで知らない身近な水の世界。全問正解めざして、みんな夢中になりました。



4～6年生は、水の大循環（テーマ例①）と地球の水（テーマ例③）をテーマにクイズと講義を実施。

【プラン① 紙芝居＋水の基礎知識の授業を受けた子どもたちの感想】

小1～3年生の感想

- ・水がないと生きていけない。水のことがたくさんしれて、うれしかったです。
- ・水はぐるぐるまわっていることがわかりました。
- ・かみしばいがおもしろかったです。知らなかったことをたくさん知りました。
- ・おもしろかったです。水がたいようにつぎにかいけいがあるとは、しりませんでした。またみたいです。
- ・水がこんなにいろいろにながれているんだということが、わかりました。
- ・かみしばいやクイズでたのしくべんぎょうできた。知らないことがいっぱいあった。

小4～6年生の感想

- ・水のつかい方や見方が変わった。
- ・水のじゅんかんのことがクイズ形式になっているのが、とても分かりやすく楽しめた。
- ・水についてしらなかったことがいっぱいあったけれど、水のクイズや地形の話で、分かることがふえました。とても楽しかったです。
- ・いままで知らなかった水のことをわかって、クイズで勉強したのでとても楽しかったです。
- ・いろいろところで水が使われていること、人の水分はどれくらいかなど知らなかったのでびっくりした。

担任の先生方より

- ・5年生の社会と国語、6年生の理科に、水の旅が違った切り口で登場します。その度にこの紙芝居が使えるそう。
- ・この話の後、理科の授業で地球を巡る水の学習をしたのだが、この話のおかげで、とてもすんなりと理解ができた。星も水も空気も生物も、すべてがつながって私たちの日々があるということを感じられていたように思う。
- ・山に木を植えることの大切さ、水の大切さ、水は循環していることなど、関連づけて考えることができ、よかったです。紙芝居は低学年の児童にも分かりやすかったです。
- ・子どもたちを授業に惹きつける工夫があり、楽しく学習できた。大人としても機会があれば聞いてみたいと思う、大変充実した時間だった。
- ・水の循環のしくみがよくわかる紙芝居でした。理科の天体や地球環境の学習に、直接的に役に立つと思う。
- ・高学年を教えていると、地球のメカニズムに関する話はよく登場するのだが、全てがつながりあって地球という星ができて上がっているということに、いつも感心し、感動している。自然への畏敬というか崇拜のような気持ちになった。

※実施校：高知市立久重小学校1～3年生／4～6年生

2 プラン⑧ 紙芝居 + フィールドワーク&水の地図づくり

対象：小学校4～6年生

必要な時間：①座学 1～2時限

②フィールドワーク 3～5時限

③水の地図づくり 2～5時限

① 座学 (1時限)

水めぐりの基礎知識

地球上の水がどのように循環しているか、また水のめぐりに影響を与える、潮の満ち引きと月の引力の関係、など、月と太陽と地球の関係や、水を入りに、地球や宇宙のしくみを学びます。衛星地図をつかって、学校周辺の川のようにもチェック。水の流れを中心に広がる地形を確認していきます。



② フィールドワーク (5時限)

五感を使って歩く、発見する、取材する

川の上流、水の流れのはじまりをたどってみます。観察、発見したことを取材。ポイントは、ここに来たことない人にも伝わるように、文字、絵など工夫して記録します。



水はどこにある？

中流域で、水が存在する所を探しながら、発見したものを記録。水は意外なところにも。見つけたものを顕微鏡で観察し、より理解を深めます。



30以上の水のかたちを見つけたよ！

水があるところには、命があり、
命があるところには、水がある。
水はいろいろな形に変化しながら、
たくさんの命を支えているね。

川から海へ

下流（海）にて、海水が蒸発し、雲となって山に当たり雨を降らせる。この一連の流れを、想像しながら…



月と潮

教室で講義を行った、月の引力と潮の満ち引きをおさらい。潮が引いた海を歩く。



③ 水の地図づくり(4時限)

フィールドワークの後は、班ごとに水の地図を作成。現地に行ったことがない人にも伝わるようにまとめ、発表！

班で構成を考え中



模造紙に清書



中流から
持ち帰った砂で文字

そして発表



【プラン⑥ 紙芝居＋フィールドワークを受けた子どもたちの感想】

- ・水の変化が想像以上だったので、とてもびっくりした。今、飲んでいる水もたくさんの道をたどってきたと考えると、とても神秘的に感じる。
- ・水は、人の中にもいて、食べ物の中にもいて、川にいて、いつも私たちを見守ってくれている、おおげさないうと「神様」みたいなそんざいです。初日、水の居場所てきな事を学び、次の日のたんけん、かんさつなどがたのしみでたまりませんでした。
- ・上流の時から、水のおもしろさ、たのしさを実感していました。そして、中流、下流につれて、川のいろんなちがいをたくさんみつけていくこと、いろんな新発見がたのしく、うれしくなっていました。
- ・水は、私たちの体の中に入っているのも、もし水がなければ、私たちはいなかったのかもしれないので、水へのありがたみなどの感謝がもっと強くなり、次の日、家族、身内などに水のいろんな話をするようになり、みんなも、水の見方がかわっていた！
- ・水はよく働くんだなと思いました。なぜなら、命のある物には水があると言っていたし、自分でもそう感じたからです。これがあつたからこそ、水を大切にしようという心が大きく動きました。
- ・水は思っている以上にすがたを変えてそんざいしている。水ということは命で、水がある所には命があるということを学びました。



担任の先生より

素晴らしい環境に囲まれているということを学び、自然について感心が深まり、こういった授業がなければ、このフィールドの素晴らしさに気づくことは出来なかったと思います。

水の授業では、地図などを活用し、言葉だけでなく視覚的に子どもたちに伝えることができた。水のクイズで生活についての内容もあり、自分のこととして子どもたちが学ぶことが出来ていました。

紙芝居や絵本は、授業に活用出来て、むしろ積極的に使いたいです。

今回、紙芝居を聞かせていただいて、すごく以前の学習と繋がりが子どもたちも楽しく学べたように思います。小学校は様々なきっかけを与える場所で、運動、学習、生活、など何に興味をもつか分からないが、全てが子どもたちにとって大切です。貴重な体験をさせていただきました。

校長先生より

比較的周りに自然が残されている校区ですが、子どもたちは日常生活の中で、そのことをあまり意識していないようです。今回、水のはたらきや役割について学習を進めていきましたが、新たな気づきがたくさんあったようです。子どもたちは、日常生活の中で川の姿をポイントで見ていることはあっても、1本の道筋としての理解はなかったようです。

特に、山から流れて海に至っているということ、上流・中流・下流でいろいろな特徴（姿）をみせることに驚いていたようです。小学校や中学校の理科において流れる水のはたらきとして川の様子の学習をしますが、今回子どもたちの発見は岩石や水量、川幅の特徴にとどまらず、そこに育っている植物の特徴や川辺で聞こえる音、匂いなどを五感を通して得た情報などがたくさんありました。教科学習とは、違ったアプローチで水（川）をとらえられていたのが興味深いものでした。

また、現地調査後の振り返りでは、子どもたちの豊かな発想を見ることができ、その作品のクオリティーの高さに驚かされました。

目に見える川の様子から入って、そのためのエネルギー循環といった見ることができない地球規模の流れについて知ることができたのではないのでしょうか。

私たちが生きていく上では必要不可欠の（しかし、子どもたちにとっては身近すぎて意識できていない）水の大切さがよく分かった授業だったように思います。一番大切な体験重視の取組であったので感謝しています。

※実施校：愛媛県西条市立吉岡小学校5年生